

ねぎのべと病が急増

～防除の徹底により蔓延を防止しましょう～

1 現在までの発生状況と今後の発生予想

ねぎ（夏どり）の6月4～5半旬の巡回調査（10地点）における発病株率は8.4%（平年1.2%）、同地点率は50.0%（平年14.0%）でいずれも高かった（図-1、2）。

6月18日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低い、降水量はほぼ平年並と予報されている。

以上のことから、今後、べと病による被害の増加が懸念されるため、以下の防除対策を徹底し、蔓延防止に努める。

2 防除対策

- 1) ほ場をよく観察し、発病状況の把握に努める。本病害は、葉に黄白色のぼやけた退色病斑を生じる（図-3）。多湿時には病斑上に灰白色の薄いカビを生じる。
- 2) 今後、急激に蔓延する可能性があるため、発病株を確認した場合は、直ちに治療効果のある薬剤を散布する（表-1）。なお、薬剤の使用時期（収穫前日数）には十分に注意する。
- 3) 薬剤は必ず展着剤を加用し、葉先から株元まで十分付着するように散布する。
- 4) RACコードが4、11、27、40、45、49の薬剤は、耐性菌出現回避のため連用しない。
- 5) 排水不良は発病を助長するため、ほ場の排水を改善する。

3 資料

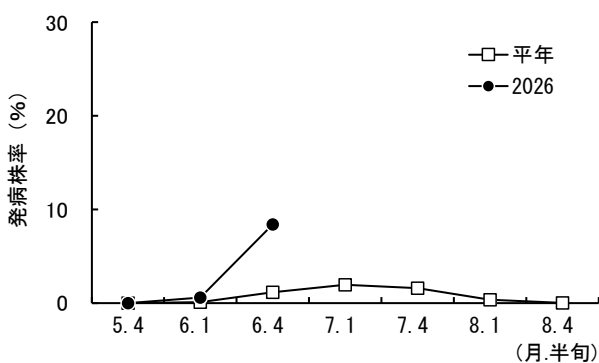


図-1 巡回調査における発病株率の推移

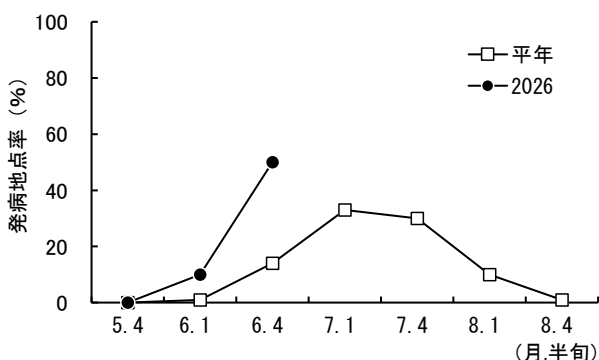


図-2 巡回調査における発病地点率の推移



図-3 べと病の発病部位

表－1 ねぎのべと病防除薬剤一覧

| RACコード | 農薬名 | 希釈倍数〔散布液量〕 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 各成分の総使用回数 |
|--------|--------------|------------------|----------|---------|-----------|
| 11 | アミスター20フロアブル | 2,000倍〔100～300L〕 | 収穫3日前まで | 4 | ス |
| P7 | アリエッティ水和剤 | 800倍〔100～300L〕 | 収穫3日前まで | 3 | 3 |
| 49・40 | オロンディスウルトラSC | 2,000倍〔100～300L〕 | 収穫7日前まで | 2 | ケコ |
| 45・40 | ザンプロDMフロアブル | 2,000倍〔100～300L〕 | 収穫14日前まで | 3 | ウサ |
| 3・M3 | テーク水和剤 | 600倍〔100～300L〕 | 収穫14日前まで | 3 | アイ |
| 40・M1 | フェスティバルC水和剤 | 1,000倍〔100～300L〕 | 収穫14日前まで | 3 | ウエ |
| 40・M5 | プロポーズ顆粒水和剤 | 1,000倍〔100～300L〕 | 収穫14日前まで | 3 | キシ |
| 27・40 | ベトファイター顆粒水和剤 | 2,000倍〔100～300L〕 | 収穫14日前まで | 3 | キク |
| 4・M3 | リドミルゴールドMZ | 1,000倍〔100～300L〕 | 収穫14日前まで | 3 | アカ |
| 40 | レーバスフロアブル | 2,000倍〔100～300L〕 | 収穫7日前まで | 2 | ケ |

ア:マンゼブ(3回以内) イ:シメコナゾール(3回以内(は種時は1回以内)) ウ:ジメモルフ(3回以内)

エ:銅(ー) カ:メタラキシル及びメタラキシルM(5回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は3回以内))

キ:ベンチアバリカルブイソプロピル(3回以内) ク:シモキサニル(4回以内) ケ:マンジプロパミド(2回以内)

コ:オキサチアピプロリン(2回以内) サ:アメクトラジン(3回以内)

シ:TPN(4回以内(土壌灌注は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内))

ス:アゾキシストロピン(5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内))

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>